

敷島町文化財調査報告第11集
(山梨県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '02

2002

敷島町教育委員会

敷島町文化財調査報告第11集
(山梨県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '02

2002

敷島町教育委員会



山宮地遺跡②4号土壤

序 文

昭和 52 年の『金の尾遺跡』の発見によって、敷島町南部の扇状地上にも古代人の足跡が残されていたことが明らかとなりました。以来敷島町では、白鳳時代の古代窯や平安時代の大集落の発見など山梨県の歴史をも塗り替える発掘調査が続きました。

平成 12 年度に行なわれました遺跡分布地図の改編によって、本町の遺跡包蔵地数は 73 箇所と数は若干減少しましたが、その面積は 1.5 倍に増加し、大多数が荒川によって形成された扇状地上に分布していることが明らかとなりました。

近年、この遺跡包蔵地域において、宅地開発や大型店舗建設などの土木工事が急増し、行政としまして埋蔵文化財の保護が急務となってきております。このような状況から、敷島町では、平成 13 年度に文化財保存対策事業としまして国、県から補助を受け開発に先立ち、埋蔵文化財の遺存状況把握のための調査を実施いたしました。

ここに刊行いたしました年報は、その調査結果をまとめたもので、あらためて、本町の歴史の重要性を認識する結果となりました。

今後は、開発によって消滅を余儀なくされる文化遺産をひとつの漏れもなく保護し、記録として後世に永く伝えていくことが私たちに課せられた責務と考えております。

最後になりましたが、本年度の敷島町埋蔵文化財保護、保存対策に際し、ご協力を戴きました関係各位に深謝いたし、序といたします。

平成 14 年〔2002〕3 月 31 日

敷島町教育委員会

教育長 小浦宗光

例　　言

1. 本年報は、山梨県中巨摩郡敷島町における埋蔵文化財試掘調査に関する報告書である。
2. 試掘調査及び整理調査は、文化庁・山梨県より補助金を受け、敷島町教育委員会が実施した。
3. 本年報の執筆、編集は大島正之が担当した。なお、第Ⅱ章の各遺跡における試掘調査の概要については1~3を小坂隆司が、4~6を大島正之がそれぞれ分担執筆した。
4. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、敷島町教育委員会に保管してある。
5. 試掘調査の実施及び本書の作成にあたり次の方々よりご教示、ご協力をいただいた。ここにご芳名を記して感謝申し上げる。

末木 健、八巻與志夫、小林健二（山梨県教育委員会）、
羽中田壯雄、畠 大介（敷島町文化財審議会委員）

調　　査　組　織

調査主体者	敷島町教育委員会 教育長 小浦宗光
調査事務局	敷島町教育委員会生涯教育課社会教育係 武井 泉（生涯教育課長）・下笠俊彦（同課社会教育係主査・係長）、酒井紀子（同課主事）
調査担当者	大島正之（同課副主査）・小坂隆司（同課嘱託）
調査・整理	青山制子・飯室久美恵・石川弘美・長田由美子・小林明美
参 加 者	高添美智子・堤 吉彦・保坂広昭・保延 勇・望月典子 関本芳子・森沢篤美

（順不同・敬称略）

目 次

序 文 例 言

I	平成 13 年度（西暦 2001）埋蔵文化財保護行政概要	2
II	各遺跡試掘調査概要	5
1	松ノ尾遺跡	5
2	山宮地遺跡①	8
3	村上遺跡	10
4	山宮地遺跡②	11
5	山宮地遺跡③	14
6	不動ノ木遺跡	16
III	まとめ	18

挿 図 目 次

第1図	試掘調査地点位置図	3
第2図	松ノ尾遺跡位置図	5
第3図	松ノ尾遺跡調査区・出土遺物	6
第4図	山宮地遺跡①位置図	8
第5図	山宮地遺跡①調査区・出土遺物	9
第6図	村上遺跡位置図	10
第7図	村上遺跡調査区	10
第8図	山宮地遺跡②位置図	11
第9図	山宮地遺跡②調査区・出土遺物	12
第10図	山宮地遺跡③位置図	14
第11図	山宮地遺跡③調査区・出土遺物	15
第12図	不動ノ木遺跡位置図	16
第13図	不動ノ木遺跡調査区・出土遺物	17

表 目 次

第1表	平成 13 年度試掘調査一覧表	4
-----	-----------------	---

I. 平成 13 年度（西暦 2001）埋蔵文化財保護行政概要

平成 13 年度状況概要

本町の町域は、南北約 15 km、東西約 4 km と南北に細長い帯状を呈しており、町域の約 8 割が急峻な地形の山間地となり、2 割が丘陵と平地で形成されている。

敷島町の遺跡包蔵地分布状況を概観すると、その 74% が島上条、中下条、大下条といった平坦地に集中していることが分かる。この僅かな平坦地が市街地として発展し、人口も急激に増加している地域なのである。

敷島町内における開発工事等の状況は、県都甲府市の隣接地という地の利と、県道甲府・敷島・韮崎線、中下条・甲府線、敷島・田富線や中央本線竜王駅など交通網の発展によって商業施設、住宅施設など民間開発を主体とした大小を問わない工事が頻繁に行なわれるようになってきている。特に田畠を貫くかたちで建設された都市計画街路愛宕町下条線の開通後は、税制対策も相俟って路線周辺の開発が著しく行なわれるようになってきており、平成 11 年度よりその影響が大きく現れているが、今年度については、民間開発件数も昨年と比較すると減少している。ただ、昨今の経済情勢の影響により、個人住宅が宅地分譲となるケースが見られるようになり、空閑地以外の造成事業も視野に入れておく必要があろう。

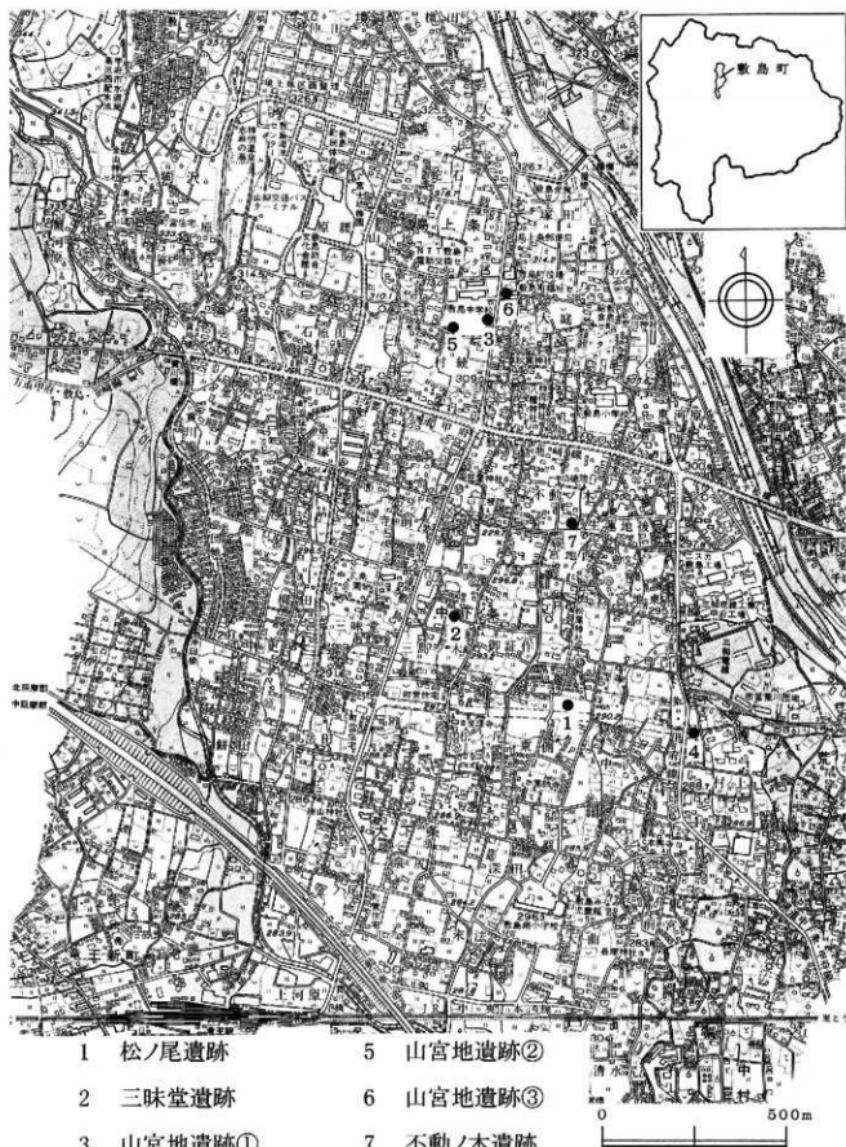
本町は公共事業に伴う試掘調査件数は比較的少ない割合であったが、13 年度については、町立中学校に関する事業が 2 件、都市計画道路事業 1 件と、こちらの方は増加に転じている。

以上開発が頻繁に行なわれている地域に、本町の 70% を超える遺跡包蔵地が重複しており、平成 13 年度の文化財保護法にともなう措置も 12 年度を上回り過去最高となった。この状況は、さらに続くものと推察される。

今後の取り組み

本町の埋蔵文化財保護活動は、過去の状況を精査すると、民間開発に関係する件数がその大多数を占めていることが分かる。民間事業者による開発行為には、個人の不動産や税制面に関する問題、開発者に対する金融機関による支援行為など諸事情が関連してきており、特に現況の経済情勢を勘案すると、デリケートな側面を抱えているのが実情である。このため、関係者からの十分な理解を得て文化財保護を行なうためには、包蔵地域の新資料の常備や立合、試掘、発掘調査資料の永久保存など行政側として統一した的確な指示が行なえるよう取り組まなければならない状況にきている。このため、敏速且つ的確な文化財保護行政を執行する上で、敷島町教育委員会は平成 13 年度より町内のすべての遺跡情報のデジタル化を進め、「遺跡情報管理システム」の運用を開始した。この成果は顕著に表れ、特に試掘調査によって得られた遺跡包蔵地域の有無に際しての地図の改訂は容易に可能となり、開発に伴う埋蔵文化財の保護が的確に実施されるようになった。

本町における埋蔵文化財保護行政の今後の課題としては、ハード面では「遺跡情報管理システム」の構築によって準備は整い、あとはその運用形態について逐次整備を図っていくことが必要となってくる。ソフト面では、これまで発掘調査自体の充実をはかるために整備が進められてきた。しかしその調査へまでの行政としての体制整備が遅れていたことは否めない事実である。そこで、14 年度中をめどに包蔵地の改訂基準の明文化をはじめ、発掘調査組織体制や作業員の労働基準面での整備など埋蔵文化財保護行政執行に関連して生じるすべての法令、規則を精査し、「埋文保護」が住民や関係する諸事業者などに理解をされるよう「埋蔵文化財保護行政執行基準要綱」の整備を図る予定である。



第1図 試掘調査地点位置図

平成 13 年度調査一覧

【試掘調査】

No.	遺跡名	調査地	調査 対象面積	調査原因	種別	時代	主な遺構	主な遺物
1	松ノ尾	中下条 1844-1	3,364 m ²	店舗建設	集落跡	縄文 古墳・平安	住居跡	土師器
2	三昧堂	中下条 1102-7	243 m ²	個人住宅	散布地	平安	なし	なし
3	山宮地①	島上条 1259-3 外	435 m ²	駐輪場 部室建設	集落跡	平安・鎌倉 室町	竪穴状構 土坑	銅製仏具
4	村上	長塚 147-5 外	2,420 m ²	道路	散布地	古墳	なし	なし
5	山宮地②	島上条 1263	80 m ²	貯水槽 敷設	集落跡	平安・鎌倉 室町	上壙墓	土師質皿 古銭
6	山宮地③	島上条 1254-3	196 m ²	集合住宅	集落跡	奈良・平安	なし	土師質皿 陶磁器
7	不動ノ木	中下条 1641-4 外	1,395 m ²	宅地造成	散布地	古墳・平安	住居跡	土師器

第1表 平成 13 年度試掘調査一覧表

【試掘調査】 7 件 内訳 1 表のとおり

【工事立合】 18 件 内訳 (個人住宅 13 件、集合住宅 3 件、電気工事 1 件、下水道工事 1 件)

【慎重工事】 0 件 内訳 (なし)

【発掘調査】 6 件 内訳 (宅地分譲地内道路 3 件・町施設 2 件、大型店舗 1 件)

発掘調査は、敷島町教育委員会、敷島町文化財調査会によって実施されている。

II. 各遺跡試掘調査概要

1. 松ノ尾遺跡

所在地 敷島町中下条字冷田 1844-1 外

調査原因 大型店舗建設工事

調査期間 平成 13 年 6 月 11~13, 18 日

調査面積 3364 m²

調査担当 小坂隆司

概要 荒川右岸から約 700m 離れた微高地上に位置し、1994・95 年にわたって都市計画道路愛宕町下条線建設事業に伴っておこなわれた第 I 次調査区の北東部に隣接する。

開発の対象となった面積は約 3364 m² と広大であったため、試掘は対象地内の北側に東西約 85 m、幅約 1.2 m のトレーナーを 1 本（1 号トレーナー）、南側には東西約 81 m、幅約 1.2 m のトレーナーを 1 本（5 号トレーナー）設定し、これら北・南側に設けたトレーナーとの間に約 5×5 m の格形のトレーナーを東西に 3 箇所（2~4 号トレーナー）並行に設定し遺構の有無を調査した。

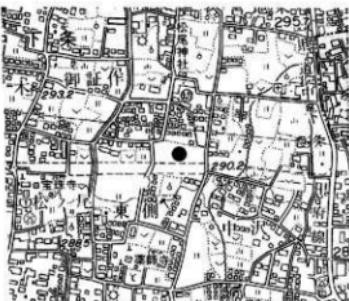
試掘の結果、設定した各トレーナーにおいて遺構・遺物が確認された。遺構が確認可能な深さは西側で地表面下約 60 cm、東側で約 30 cm を測ることが明らかとなり、全体的に西から東側にかけて浅くなる傾向にあった。また、過去におこなわれた第 I・II 次の調査では遺物を包含する厚い黒色土層が観察されているが、今回も開発地域のほぼ中央から西側にかけての一帯で黒色の遺物包含層が広範囲に展開することが分かった（1・5 トレーナー内中央～西側、2・3 トレーナー内一遺物を含むした黒色土層の確認範囲）。

発見遺構は住居跡（古墳時代前・後期）や土坑、ピットなど、遺物は土師器や青磁の小片等がある。

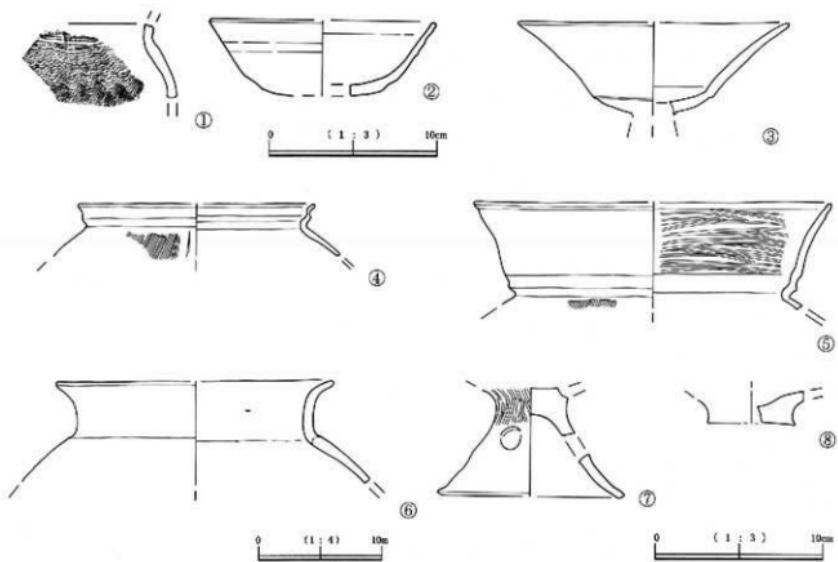
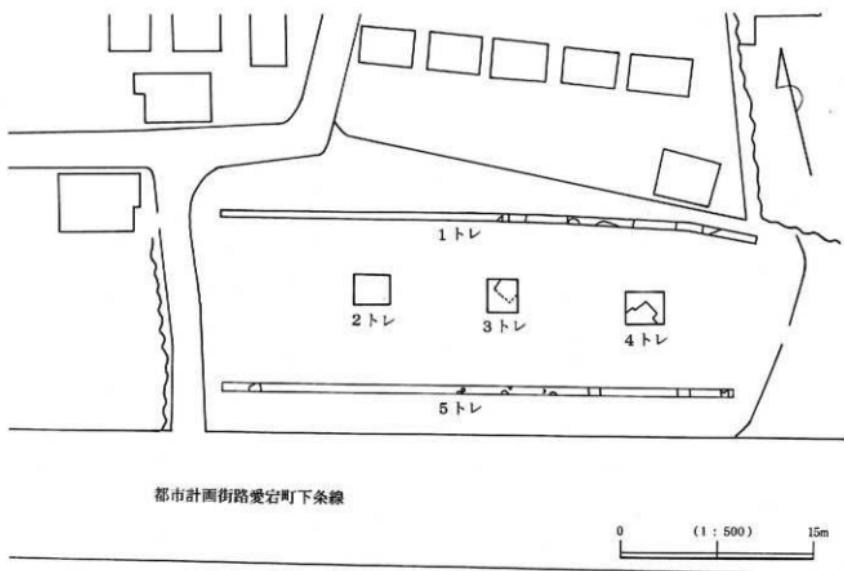
試掘調査後、教育委員会と開発原因者との協議の末、開発により埋蔵文化財に破壊が及ぶとされる場所については盛土および設計変更による遺跡保護の処置が成された。

遺物

- ①弥生土器。胎土はやや粗く、長石、赤色粒子を含む。5 トレーナー出土。
- ②土師器壺。推定口径約 14 cm、現存器高約 4.6 cm、推定底径約 3.6 cm。胎土はやや粗く、長石、石英、黒雲母、赤色粒子を含む。底部ヘラ整形。4 トレーナー出土。
- ③土師器高壺。推定口径約 22.0 cm、壺部現高約 7.5 cm。胎土はやや粗く、長石、石英、赤色粒子を含む。5 トレーナー 1 号住居跡出土。
- ④土師器 S 字状口縁付甕。推定口径約 19.4 cm。胎土は粗く、長石、石英、赤色粒子、小石を含む。体部上方斜め方向のハケ目、口縁部横ナデ仕上げ。4 世紀後半。
- ⑤土師器台付甕。推定口径約 28.8 cm。胎土はやや緻密で、長石、石英、金雲母を含む。体部上方斜め方向のハケ目、口縁部外面横ナデ仕上げ、口縁部内面横方向の磨き。口縁部が幅広で受口状を呈する単純口縁の台付甕。4 世紀中頃。
- ⑥土師器球胴甕。推定口径約 22.0 cm。胎土は粗く、長石、黒雲母、赤色粒子、小石を含む。口縁部横ナデ仕上げ。6 世紀代。
- ⑦土師器高壺。現高約 6.7 cm、脚部推定底径約 10.6 cm。胎土は粗く、長石、石英、赤色粒子、小石を含む。壺部から脚部外面にかけて縦方向の磨き。脚部中央に直径約 cm の穿孔有り。4 世紀代。
- ⑧土師質土器小皿。推定底径約 5.3 cm。胎土は緻密で金雲母を多く含む。12 世紀代。



第 2 図 松ノ尾遺跡位置図



第3図 松ノ尾遺跡調査区・出土遺物



調査風景 西から



カマド検出状況



透構確認状況

2. 山宮地遺跡①

所在 地 敷島町島上条 1259-3 外
調査原因 敷島中学校部室および駐輪場建設工事
調査期間 平成 13 年 6 月 21・22 日
調査面積 約 435 m²
調査担当 小坂隆司

概要 荒川右岸から約400m 離れた扇状地上に位置する。本遺跡は町役場の南側一帯と県道敷島・竜王線を挟んで敷島中学校のグラウンドにかけて広がりをもつ。今回、県道と隣接した校庭内に建設される部室・駐輪場予定地部分に

おいて南北に長さ約 10.5 m、幅約 1.2 m のトレンチを 1 本設定して試掘を行った。

調査では造成工事による約 50~70 cm の土砂が一面に覆っていることが観察され、また最近の大きな搅乱が所々にみられたが、幸いにも盛土されていたことにより遺構等は却って良好に埋蔵されていた。このため、現地表面下約 90~100 cm の深さで遺構および遺物が発見され、遺跡の存在が明らかとなかった。

トレンチ内からは、土坑状の掘り込みが 5 個所で確認され、遺物も縄文時代前期末、平安時代の土師器、そして中世のカワラケや常滑の破片などが遺構内外から量的には少ないが出土した。

このような試掘結果から敷島町文化財調査会により平成 13 年 7 月 5~30 日まで発掘調査が実施された。

本調査では、重複し密に分布する中世の竪穴状遺構 4 基、方・円形の土坑 14 基、溝状遺構 1 条などが確認され、遺物はカワラケ、陶器類（青磁片、常滑焼の壺片、志戸呂焼茶壺片、擂鉢片）などが出土した。

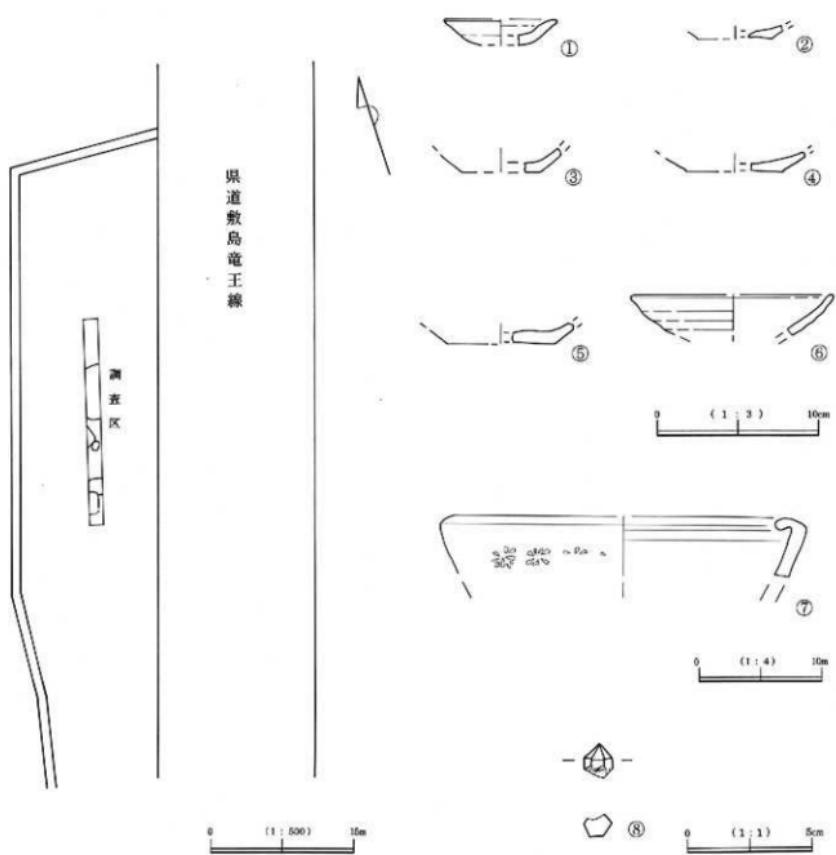
特筆されることは竪穴状遺構から仏具を詰め込んだ銅製容器が発見されたことである。中には錫杖頭、小仏像の台座などのはか、水瓶の注ぎ口部分などが入れ込みの状態で納まっていた。なお、平成 14 年度に調査報告書を刊行予定である。

遺 物

- ① 土師質小皿。推定口径約 6.8 cm。ロクロナデ。淡い黄橙。胎土はやや粗く、長石、石英、金雲母、赤褐色粒子を含む。
- ② 土師質小皿。推定底径約 4.6 cm。ロクロナデ。底部回転糸きり。淡い黄橙。胎土はやや粗く、長石、石英、金雲母、赤褐色粒子を含む。
- ③ 土師質小皿。推定底径約 4.8 cm。ロクロナデ。底部回転糸きり。淡い橙。胎土はやや粗く、長石、石英、金雲母、赤褐色粒子を含む。
- ④ 土師質小皿。推定底径約 6.0 cm。ロクロナデ。底部回転糸きり。淡い橙。胎土はやや粗く、長石、石英、金雲母、赤褐色粒子を含む。
- ⑤ 土師質小皿。推定底径約 6.6 cm。ロクロナデ。底部回転糸きり。淡い橙。胎土はやや粗く、長石、石英、金雲母、赤褐色粒子を含む。
- ⑥ 土師質小皿。推定口径約 12 cm。ロクロナデ。淡い黄橙色。胎土はやや粗く、長石、石英、黑雲母、赤褐色粒子を含む。
- ⑦ 土師質火鉢。推定口径約 30 cm。ロクロナデ。外面黒褐色で内面淡い黄橙色。胎土は緻密で、長石、石英、黑雲母、赤褐色粒子を含む。体部外面上位に菊状の文様がみられる。
- ⑧ 石製品（水晶）。最大長 2.1 cm、最大幅 1.8 cm の六角柱で、先端部は六角錐を呈する。



第4図 山宮地遺跡①位置図



第5図 山宮地遺跡①調査区・出土遺物



山宮地遺跡①南から



東から

3. 村上遺跡

所在地 敷島町長塚 147-5 外
調査原因 都市計画街路愛宕町下条線建設工事
調査期間 平成 13 年 6 月 27 日
調査面積 約 2,420 m²
調査担当 小坂隆司

概要 遺跡は松ノ尾遺跡の東側約 300 m に位置し、古墳時代の包蔵地として A~D 遺跡にわたって点在している。

1994 年に都市計画街路建設工事に先駆けて行われた松ノ尾遺跡の第 1 次調査地点から東側へ約 300 m 離れた道路延長部分に位置している。

今回の確認調査は、昨年度も試掘調査を行った地点の西隣にあるがとくに遺構・遺物等は昨年の調査と同様に何も発見されなかった。

松ノ尾遺跡の東端から末法遺跡の南東側にかけてわずかな高低差をもつ崖線状の地形が南北に蛇行して走っており、これより西側の微高地上に古墳・平安時代の松ノ尾や末法遺跡の集落が営まれている。

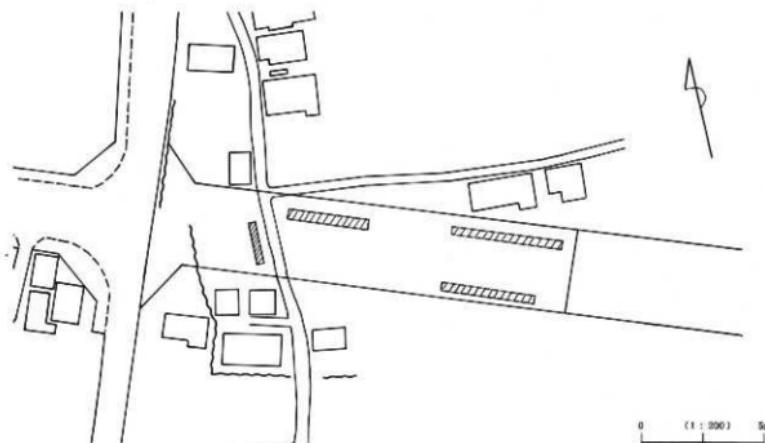
上記の微地形にみると、今回の調査地点は旧荒川の左岸に相当するか、もしくはわずかな谷状を呈し、周辺にみられる当時の集落とは隔絶された立地であったものと考えられる。



第 6 図 村上遺跡位置図



トレンチ全景



第 7 図 村上遺跡調査区

4 山宮地遺跡②

所在地 敷島町島上条 1263 外

調査原因 敷島町災害時貯水槽設置工事

調査期間 平成 13 年 11 月 26 日～28 日

調査面積 80 m²

調査担当 大島正之

概要 山宮地遺跡は、金峰山に源をもつ荒川によって形成された扇状地の扇頂部分に位置し、荒川右岸の微高地上に広がる遺跡である。

遺跡南方には、平成 12 年度の試掘調査によって新に発

見された奈良・平安時代を中心とする集落遺跡『村続遺跡』が所在する。

本遺跡は、平成 11 年に発見されたもので、平安時代後期・鎌倉時代の遺構が発見されている。調査は、東西 6 m、幅 1.7 m と東西 3.8 m、幅 1.6 のトレーナーを各 1 本設定し確認を行った。この結果、地表面下 110 cm で遺構を確認した。

遺構の規模は、トレーナーから一部外れるものが多くその全容はつかめないが、確認できる範囲では東西 80 ~110 cm、南北 100 cm 強の南北が長軸となる隅丸長方形の土坑跡と 65 cm 四方の隅丸方形とみられる土坑跡が計 13 基、確認範囲で東西 50 cm、南北 80 cm の掘り込みを持つ住居跡と見られる遺構 1 軒が発見された。

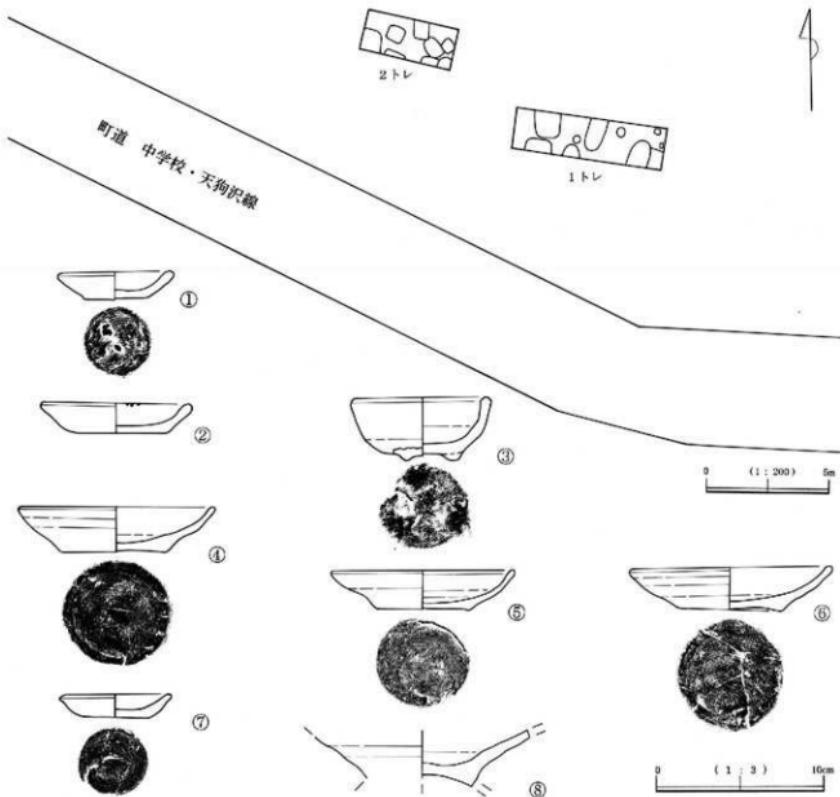
本調査地点は、平成 13 年 12 月 11 日から平成 14 年 1 月 11 日までの間、敷島町教育委員会によって発掘調査が実施され、15~16 世紀と思われる土壙墓跡 32 基、平安時代住居跡 2 軒が発見されている。調査報告書は平成 14 年度中に刊行予定である。

遺物

- ①カワラケ小皿。口径 6.5 cm、底径 3.9 cm、器高 1.8 cm。胎土はキメ細かく緻密。金雲母、長石含む。体部ナデ仕上げ、底部糸引き。乳白色。4 号土壙墓
- ②土師質土器小皿。口径 8.9 cm、底径 5.1 cm、器高 2 cm。胎土はやや粗く長石、金雲母を含む。底部糸引き後周縁部ナデ仕上げ。口縁部煤付着。1 号土壙墓
- ③土師質土器香炉。口径 7.7 cm、底径 5 cm、器高 4 cm。胎土はキメ粗く、金雲母、長石を多く含む。底部糸切り、底部貼り付けの三足を有す。淡茶褐色。1 号土壙墓
- ④カワラケ皿。口径 10.7 cm、底径 6.4 cm、器高 2.9 cm。キメ細かく緻密。長石、金雲母を含む。底部糸切り後周縁部ナデ仕上げ。外面から内面 3 分の 1 に煤痕付着。4 号土壙墓
- ⑤カワラケ皿。口径 11 cm、底径 5.6 cm、器高 2.5 cm。キメ細かく、雲母、長石、赤色粒子を含む。底部糸切り、淡褐色。4 号土壙墓
- ⑥カワラケ皿。口径 12 cm、底径 6.3 cm、器高 2.7 cm。胎土はキメ細かく緻密。金雲母、長石を含む。底部糸切り。明淡褐色。
- ⑦土師質土器小皿。口径 6.6 cm、底径 4.1 cm、器高 1.5 cm。胎土はキメやや粗く、金雲母、長石を含む。底部糸切り。茶褐色。1 号土壙墓。
- ⑧土質土器高台付坏。現存器高 4 cm。胎土はキメ細かく緻密。金雲母を多く含む。暗茶褐色。住居跡。



第 8 図 山宮地遺跡②位置図



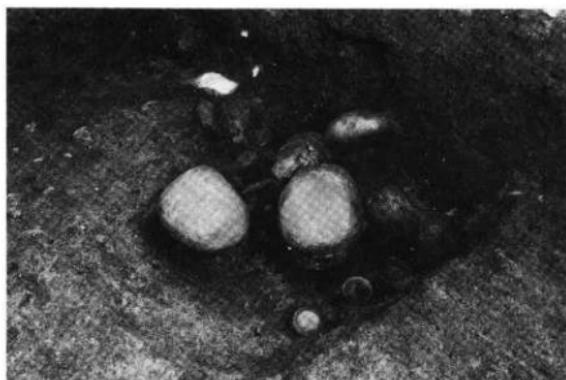
第9図 山宮地遺跡②調査区・出土遺物



山宮地遺跡②西から



4号土墳墓遺物出土状況



1号土壤



1号土壤完照



5号土壤

5 山宮地遺跡③

所在地 敷島町島上条 1254-3 外

調査原因 民間集合住宅建設工事

調査期間 平成 13 年 12 月 11 日～14 日

調査面積 196 m²

調査担当 大島正之

概要 本調査地点は、山宮地遺跡①試掘調査地の北東約 50m に位置し、県道敷島・竜王線沿で、平成 11 年度に実施された山宮地遺跡 1 次調査地点に隣接する。

工事敷地面積が狭いため、建物建設予定地に南北方向に

幅 1.7 m、長さ 13 m のトレーナー 1 本を設定し、調査を行った。この結果、深さ 110 cm で礫層となり、遺物は、トレーナー中央から北側にかけて発見されたものの、遺構は確認されなかった。遺物は深さ約 60 cm 地点から出土はじめ、礫確認面まで散在して出土した。

遺物

① 繩文土器深鉢。残存高 4.8 cm。半載竹管による 2 条の平行沈線、RL の縄文を有す。前期後半。

② 土師器壺。底径 4.7 cm。内面底部に銅及びタール状の付着物が全面に認められる。

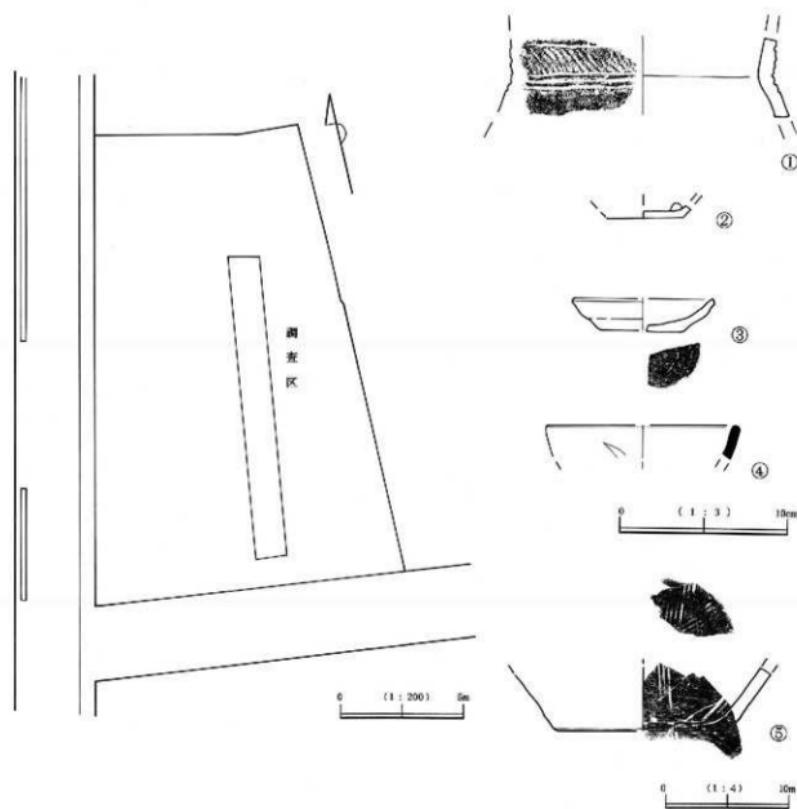
③ 土師質土器小皿。推定口径 8.3 cm、推定底径 5.1 cm、推定器高 2 cm。キメ細かく、雲母を含む。黒色。

④ 青磁碗。推定口径 11.4 cm。外面体部上方に凌ぎ蓮弁を有す。

⑤ 土師質土器擂り鉢。推定底径 13.6 cm、残存器高 5.2 cm。胎土は細かく、雲母、金雲母を含む。内面に縦方向の擂り目が施される。内面暗茶色、外面茶褐色。



第 10 図 山宮地遺跡③位置図



第11図 山宮地遺跡③調査区・出土遺物



トレンチ 北より



6. 不動ノ木遺跡

所在地 敷島町中下条 1641-4 外

調査原因 宅地造成工事

調査期間 平成 13 年 12 月 17~20 日

調査面積 1.395 m²

調査担当 大島正之

概要 本遺跡は、荒川右岸の微高地上に位置する。

これまで周辺での調査は行われておらず、遺跡の空白地帯であった。

調査は、敷地北側に幅 1.7 m、東西 17 m のトレンチを 2 本、中心から南側にかけて 4 m 四方のトレンチを 3 箇所それぞれ設定した。その結果地表面下 20~30 cm で遺構が確認された。特に北側の 1、2 トレンチからは住居跡とみられる遺構が 5 箇所、南の 5 トレンチからは円形の浅い掘り込みをもつ遺構が 2 箇所認められた。

確認面が浅いため、現状での造成工事では文化財の保護は不可能であり、開発者側と協議を行った結果、宅地造成部分に 50 cm の盛土を行い、さらに、建設される宅地は木造で基礎の深さ 20 cm であることを確認した。盛土による埋蔵文化財の保護策を執り、町道建設予定地については発掘調査を実施することになった。

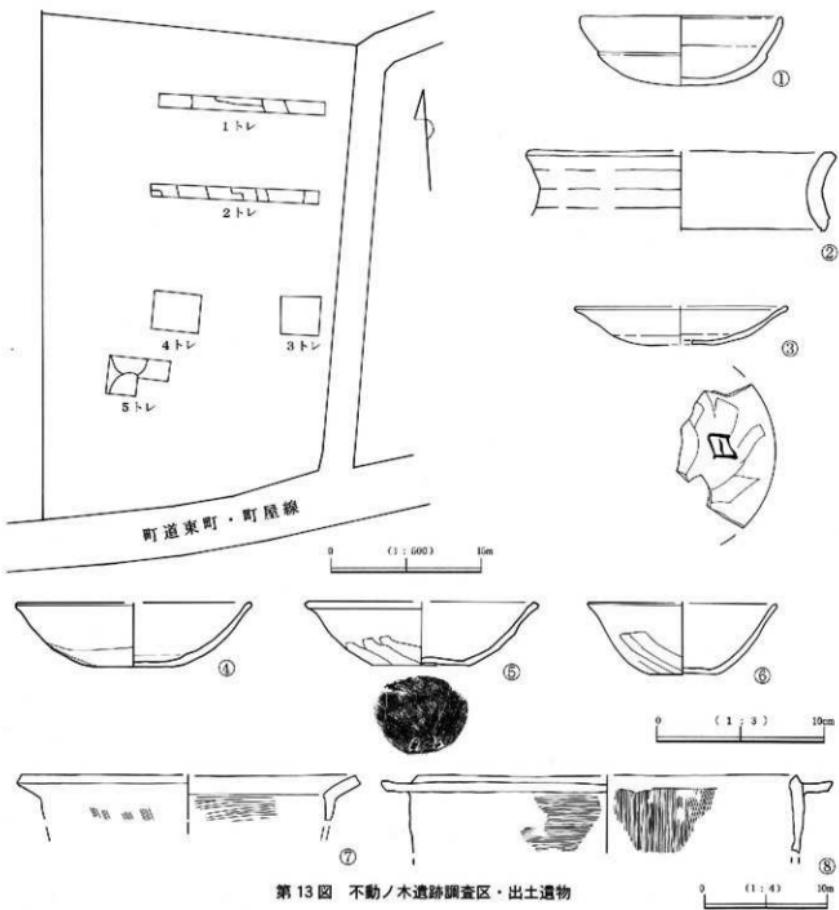
なお、発掘調査は敷島町文化財調査会によって実施され、平成 15 年度に報告書刊行予定である。

遺物

- ①土師器壺。口径 12.2 cm、底径 2.5 cm、器高 4.3 cm。胎土は緻密でキメ細かい。口辺部横ナデ仕上げ淡茶色。2 トレ
- ②土師器甕。推定口径 19 cm。胎土はキメ細かく、雲母、石英、赤色粒子を含む。口縁部横方向のナデ仕上げ。淡茶褐色。1 トレ
- ③土師器皿。推定口径 12.8 cm、推定底径 3.8 cm、器高 2.3 cm。胎土はキメ細かく緻密で、赤色粒子を含む。口辺部横方向のナデ、外面体部斜め方向のヘラ削り仕上げ。外面体部下半部に逆位に『日』の墨書。橙褐色。1 トレ
- ④土師器壺。推定口径 14.1 cm、推定底径 5 cm、器高 3.9 cm。胎土はキメ細かく、緻密で、赤色粒子、長石を含む。体部下半横方向にヘラ削り。底部ヘラ整形。橙褐色。1 トレ
- ⑤土師器壺。推定口径 13.8 cm、底径 6 cm、器高 3.9 cm。胎土はキメ細かく緻密。口辺部横ナデ、体部外面下半斜め方向のヘラ削り、底部ヘラ整形による仕上げ。内黒土器。1 トレ
- ⑥土師器壺。推定口径 11.3 cm、底径 4.1 cm、器高 4.3 cm。胎土はキメ細かく、赤色粒子を含む。口辺部横ナデ、体部外面下半斜め方向にヘラ削り、底部ヘラ整形による仕上げ。橙褐色。1 トレ
- ⑦土師器甕。推定口径 27.2 cm。胎土はキメやや粗く、金雲母、長石、石英を含む。内面胴部横方向、外面胴部縦方向にハケ目を施す。暗茶褐色。1 トレ
- ⑧土師器羽釜。推定口径 30 cm。胎土はキメやや粗く、金雲母、長石、石英、赤色粒子を含む。内面胴部縦方向ハケ目、外面胴部横方向ハケ目を施す。暗茶褐色。1 トレ



第 12 図 不動ノ木遺跡位置図



第13図 不動ノ木遺跡調査区・出土遺物



2トレ 東より



5トレ 北より

III. ま と め

今年度の文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護対応は、試掘調査7件、工事立合18件で、慎重工事の該当は無かった。また発掘調査件数は6件であった。試掘調査件数は昨年度より減少しているものの、工事立合、発掘調査の件数は増加しており、総合的な件数は過去最多であった。特に今年度の試掘調査結果で注目されるのは『不動ノ木遺跡』と『山宮地遺跡』の調査である。

不動ノ木遺跡周辺は住宅密集地ということもあり、これまで試掘や発掘調査は実施されていなかった。そのため包蔵地域には指定されているものの、確実に遺跡が存在するか否かは教育委員会とともに把握していかなかった地域である。今回の試掘調査地は、荒川右岸の微高地上であり、真南約350mには昨年度の試掘調査によって遺跡の存在が確認され、本年度発掘調査を実施した松ノ尾遺跡第7次調査地点が所在する。過去の試掘調査によって、松ノ尾遺跡は荒川右岸の最初の微高地上に形成された遺跡と考えられることから、不動ノ木遺跡も松ノ尾遺跡の延長線上に営まれたものと考えられよう。また、松ノ尾遺跡の南側には古墳時代前期から中期にかけての未法遺跡が存在することなどからこの微高地上には、南北に連続と遺跡が存在することが確認された。また、不動ノ木遺跡は、試掘調査の後、発掘調査を実施し、100m²という面積で古墳時代後期住居跡3軒、平安時代中期住居跡4軒が発見されており、密度の濃い集落跡であったことが判明している。

山宮地遺跡は、1999年に一度発掘調査が実施されており、平安時代後期、中世前期の遺構、遺物が確認されている。今回は比較的まとまった範囲で試掘調査が実施され、大きな成果が得られた。

『山宮地①』では、土坑状遺構や中世遺物の確認によって、発掘調査が実施され、中世の豊穴状遺構や常滑、志戸呂焼片、また、鐫状頭など仏具が銅製容器に入れ込まれた状態で出土するなど鎌倉、室町時代の仏教や铸造史を解明する上で大きな成果を得ることができた。

『山宮地②』では、中世土壙墓が発見でき、試掘調査をもとに実施された発掘調査では、80m²という狭い範囲から32基という数の墓壙跡が発見された。さらに副葬品としてのカワラケ皿類や銅貨が多くの遺構から複数点出土しており、遺構は重複関係にあるものが多く、当時の埋葬方法や15、16世紀の土器編年などを解明するうえで大きな発見となった。

山宮地遺跡の試掘調査は、これまであまり知られていない山梨県における鎌倉、室町時代の墓制のありかたや、それに付随する遺物の年代など中世仏教史全般を知る上で大きな成果を上げることとなった。

以上特質すべき遺跡の試掘調査結果について報告したが、この他に調査を行った松ノ尾遺跡でも古墳時代前期住居跡や弥生土器片などが出土しており、本遺跡が縄文時代から平安時代までの大規模な複合遺跡であることをあらためて知らしめる結果となった。

村上遺跡については、昨年度に引き続き都市計画街路建設事業に先立っての試掘調査であった。今回も遺構等は発見されなかった。昨年までの調査結果からも未法、松ノ尾遺跡東端にみられる高低差を境に、東側は砂礫層が堆積しており、村上遺跡までこの層が確認された。この結果からあらためて村上遺跡周辺が荒川の旧河道もしくは川岸であったことが確認された。

本年度の調査によって新たな資料が提示され、敷島町の歴史環境の復元がさらに一步進む結果となった。今後も文化財保護行政を充実させ、保護と資料の活用を行なっていきたい。

平成13年度の試掘調査結果を踏まえ、山宮地遺跡、および村統遺跡の包蔵地の変更を行い、平成14年度には新たな遺跡包蔵地域図のもとに、銳意文化財保護に努めていく。

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいしきつちょうさねんばう				
書名	埋蔵文化財試掘調査年報'02				
副書名					
卷次					
シリーズ名	敷島町文化財調査報告書				
シリーズ番号	11				
編著者名	大島正之・小坂隆司				
編集機関	敷島町教育委員会				
所在地	〒400-0123 山梨県中巨摩郡敷島町島上条 1020				
発行年月日	平成14年〔西暦2002〕 3月31日				
所収遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号		
		193928	18		
			39		
			27		
			29		
松ノ尾遺跡	本文中のとおり		10		
山宮地遺跡	本文中のとおり				
三味堂遺跡	本文中のとおり				
不動ノ木遺跡	本文中のとおり				
村上遺跡	本文中のとおり				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松ノ尾遺跡	集落跡	绳文 古墳・平安	住居跡	土師器	古墳時代前期集落跡の存在を確認。
山宮地遺跡①	集落跡	平安・鎌倉・室町	竪穴状遺構・土坑	銅製仏具 土師質皿	銅製仏具か入れ込み状態となつた銅製容器出土。
山宮地遺跡②	集落跡	平安・鎌倉・室町	土壙墓	土師質皿 古銭	土壙墓内から、かわらけ、古銭、五輪塔などが豊富に出土。
山宮地遺跡③	集落跡	平安・鎌倉・室町	なし	土師質皿 陶磁器	かわらけ、擂鉢、青磁片などが出土。
村上遺跡	散布地	古墳	なし	なし	
不動ノ木遺跡	散布地	古墳・平安	住居跡	土師器	

敷島町文化財調査報告第 11 集
埋蔵文化財試掘調査年報 '02

発行日 2002 年 3 月 31 日

発 行 敷島町教育委員会

印 刷 協和印刷社

